

アスレティックトレーナーコース・健康運動実践指導者コース

保健医療学部では、『アスレティックトレーナーコース』および『健康運動実践指導者コース』の2つのコースを設けています。これらのコースでは、鍼灸学科・柔道整復学科に含まれる必修科目・選択科目に加え、自由科目を履修することによって、(公財)日本スポーツ協会が認定する「アスレティックトレーナー」、「スポーツプログラマー」、(公財)健康・体づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」の受験資格を得ることができます。

■ アスレティックトレーナーコース

アスレティックトレーナーコースでは、所属学科に含まれる必要な科目(次ページの別表に示す必修科目・選択科目・自由科目)を履修することにより、以下の受験資格を得ることができます。

得られる受験資格	資格認定団体
アスレティックトレーナー	(公財)日本スポーツ協会
スポーツプログラマー	(公財)日本スポーツ協会
健康運動実践指導者	(公財)健康・体づくり事業財団

※ アスレティックトレーナーコースを選択し、必要な科目をすべて履修した者は、「(公財)日本スポーツ協会公認スポーツリーダー」資格を同時に取得することができます。

アスレティックトレーナーコースに所属し、上記の受験資格取得を目指すためには、事前にコース登録を行う必要があります。本コースの登録方法については、別途定められている付帯コースガイダンスで説明しますので、必ず参加するようにしてください。

また、(公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験資格を得るためには、日本赤十字社が実施する「赤十字救急法救急員」養成講習会を受講し、合格する必要があります。

■ 健康運動実践指導者コース

健康運動実践指導者コースでは、所属学科に含まれる必要な科目(次ページの別表に示す必修科目・選択科目・自由科目)を履修することにより、以下の受験資格を得ることができます。

得られる受験資格	資格認定団体
健康運動実践指導者	(公財)健康・体づくり事業財団

健康運動実践指導者コースに所属し、上記の受験資格取得を目指すためには、事前にコース登録を行う必要があります。本コースの登録方法については、別途定められている付帯コースガイダンスで説明しますので、必ず参加するようにしてください。

<自由科目の開講時期について>

アスレティックトレーナーコースおよび健康運動実践指導者コースに関わる選択科目および自由科目は、毎週土曜日のほか、夏休み・春休みの休業期間に開講されます。また、「現場実習Ⅰ～Ⅴ」は平日6時限目および夏休み・春休みの宿泊合宿として実施されます。時間割は変則的に組まれることとなりますので、各自開講日を十分に確認した上で授業に臨むよう注意してください。

<コースを選択するにあたっての注意事項>

本コースで取得可能な資格は、「はり師」「きゅう師」「柔道整復師」の資格にあわせて取得することにより、スポーツ現場でより力を発揮することができます。ただし、所属学科に含まれる必修科目・選択科目の他に各コースに必要な自由科目を履修しなければならないため、学業の負担は非常に増えます。

本コースの選択を希望する学生は、「アスレティックトレーナーコース・健康運動実践指導者コースガイダンス」に必ず出席し、無理のない学修計画をたてるよう心がけて下さい。

アスレティックトレーナーコース・健康運動実践指導者コース 配当科目(2018年度以降入学生)

鍼灸学科							柔道整復学科							受験資格				
科目区分		授業科目の名称	授業形態	時間数	単位	必修・選択・自由	開講	科目区分		授業科目の名称	授業形態	時間数	単位	必修・選択・自由	開講	AT	SP	HFI
共通基礎科目	人間と社会	健康の創造(体育理論)	演習	30	1	選択	1前	共通基礎科目	人間と社会	健康の創造(体育理論)	演習	30	1	選択	1前			○
		健康スポーツ(体育実技)	実習	30	1	選択	1後			健康スポーツ(体育実技)	実習	30	1	選択	1前		○	○
専門基礎科目	現代医学の基礎	人体構造学Ⅰ(総論・組織)	講義	60	2	必修	1前	専門基礎科目	基礎柔道整復学	運動器系の解剖Ⅰ	講義	30	2	必修	1前	○		○
										運動器系の解剖Ⅱ	講義	30	2	必修	1後			
	現代医学の臨床	整形外科学(スポーツ医学を含む)	講義	30	1	必修	2前	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学Ⅱ	講義	30	2	必修	1後			
		リハビリテーション医学Ⅰ	講義	30	1	必修	2後			整形外科学Ⅱ	講義	30	2	必修	2後	○		
		救急法	演習	30	1	選択	3前		リハビリテーション医学Ⅰ	講義	30	2	必修	2前	○			
	栄養学(スポーツ栄養学を含む)	講義	30	1	選択	3前	健康科学	栄養学(スポーツ栄養学を含む)	講義	30	1	選択	3前	○	○	○		
アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目	共通科目	スポーツ組織論	講義	30	1	自由	1後	アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目	共通科目	スポーツ組織論	講義	30	1	自由	1後	○	○	
		発育発達論	講義	15	1	自由	2後			発育発達論	講義	15	1	自由	2後	○	○	
		スポーツ心理学総論	講義	15	1	自由	2後			スポーツ心理学総論	講義	15	1	自由	2後	○	○	○
		スポーツ指導論	講義	30	1	自由	1後			スポーツ指導論	講義	30	1	自由	1後	○	○	
		トレーニング科学総論	講義	30	1	自由	2前			トレーニング科学総論	講義	30	1	自由	2前	○	○	○
		スポーツ医学総論	講義	30	1	自由	2前			スポーツ医学総論	講義	30	1	自由	2前	○	○	○
	専門科目	アスレティックトレーナーの役割	講義	30	1	自由	1後		専門科目	アスレティックトレーナーの役割	講義	30	1	自由	1後	○		
		トレーニング科学	講義	30	1	自由	4前			トレーニング科学	講義	30	1	自由	4前	○		
		スポーツ・バイオメカニクス	講義	30	1	自由	3後			スポーツ・バイオメカニクス	講義	30	1	自由	3後	○		
		運動生理学	講義	30	1	自由	3前			運動生理学	講義	30	1	自由	3前	○		○
		スポーツ心理学	講義	30	1	自由	4前			スポーツ心理学	講義	30	1	自由	4前	○		
		スポーツ外傷障害の基礎知識	講義	30	1	自由	3後			スポーツ外傷障害の基礎知識	講義	30	1	自由	3後	○		
		健康管理とスポーツ医学	講義	30	1	自由	3前			健康管理とスポーツ医学	講義	30	1	自由	3前	○		○
		予防とコンディショニングⅠ	講義	30	1	自由	2後			予防とコンディショニングⅠ	講義	30	1	自由	2後	○		
		アスレティックリハビリテーションⅠ	講義	30	1	自由	3後			アスレティックリハビリテーションⅠ	講義	30	1	自由	3後	○		
		スポーツ栄養学	講義	30	1	自由	4前			スポーツ栄養学	講義	30	1	自由	4前	○		
	健康運動実践指導者科目	身体の検査・測定と評価(体力測定を含む)	実習	30	1	自由	2後		健康運動実践指導者科目	身体の検査・測定と評価(体力測定を含む)	実習	30	1	自由	2後	○		○
		予防とコンディショニングⅡ(テーピング・ストレッチングを含む)	実習	30	1	自由	3前			予防とコンディショニングⅡ(テーピング・ストレッチングを含む)	実習	30	1	自由	3前	○		○
		予防とコンディショニングⅢ	実習	30	1	自由	4前			予防とコンディショニングⅢ	実習	30	1	自由	4前	○		
		アスレティックリハビリテーションⅡ	実習	30	1	自由	3後			アスレティックリハビリテーションⅡ	実習	30	1	自由	3後	○		
		アスレティックリハビリテーションⅢ	実習	30	1	自由	4前			アスレティックリハビリテーションⅢ	実習	30	1	自由	4前	○		
		エアロビック運動の実際Ⅰ	実習	30	1	自由	2前			エアロビック運動の実際Ⅰ	実習	30	1	自由	2前		○	○
		エアロビック運動の実際Ⅱ	実習	30	1	自由	3前			エアロビック運動の実際Ⅱ	実習	30	1	自由	3前		○	○
		トレーニングの理論と実際	実習	30	1	自由	2後			トレーニングの理論と実際	実習	30	1	自由	2後		○	○
		健康づくりと運動プログラム	実習	30	1	自由	2前			健康づくりと運動プログラム	実習	30	1	自由	2前		○	○
アスレティックトレーナー現場実習科目	現場実習Ⅰ	実習	30	1	自由	1後	アスレティックトレーナー現場実習科目	現場実習Ⅰ	実習	30	1	自由	1後	○				
	現場実習Ⅱ	実習	30	1	自由	2前		現場実習Ⅱ	実習	30	1	自由	2前	○				
	現場実習Ⅲ	実習	30	1	自由	2後		現場実習Ⅲ	実習	30	1	自由	2後	○				
	現場実習Ⅳ	実習	30	1	自由	3前		現場実習Ⅳ	実習	30	1	自由	3前	○				
	現場実習Ⅴ	実習	60	2	自由	3通		現場実習Ⅴ	実習	60	2	自由	3通	○				

※ アスレティックトレーナー受験資格の取得には日本赤十字社が実施する「赤十字救急法救急員」養成講習会を受講する必要があります。